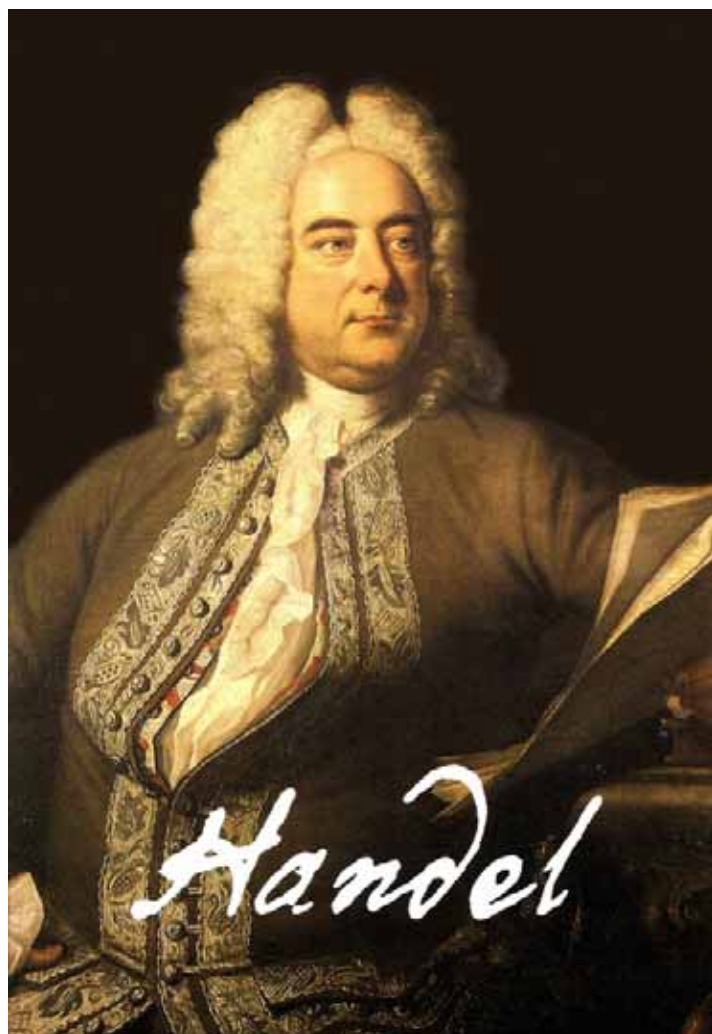


浜松バッハ研究会 創立 25 周年記念コンサート

メサイア全曲

The Messiah

ワトキンス・ショウ版 / Watkins Shaw Edition



2010 年 1 月 17 日(日)

アクトシティ浜松 中ホール



財団法人浜松市文化振興財団 はままつ文化サポート対象事業

主催 : 浜松バッハ研究会 共催 : 豊橋バッハアンサンブル

助成 : チヨタ遠越準一文化振興基金 はましん地域振興財団

後援 : 浜松市・豊橋市・(財)豊橋文化振興財団・静岡県合唱連盟・浜松市合唱連盟
静岡新聞社・SBS 静岡放送・中日新聞東海本社

市長ご挨拶



浜松バッハ研究会が創立25周年を迎えられ、記念コンサート「メサイア」全曲公演が盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

浜松バッハ研究会はバッハの大作・マタイ受難曲や口短調ミサ曲などの本格的な演奏を浜松で継続され、ドイツ演奏旅行を通じてバッハゆかりの諸都市での交流も行われました。このたびは没後250年を迎えたヘンデルの大作「メサイア」の全曲公演に挑まれます。

このように市民の皆さまによる合唱団と管弦楽団が一体となり、世界遺産ともいべき大作を演奏する伝統がこの地に根付いて四半世紀を迎えるということは、誠に意義深いものであり、「音楽の都・浜松」の実現に向けて取り組む本市としましても、大変心強く感じているところでございます。

開催にご尽力されました関係の皆様に敬意を表しますとともに、浜松バッハ研究会のますますのご発展と皆さま方のご健勝を心からお祈り申し上げ、お祝いのことばとさせていただきます。

浜松市長 鈴木 康友

ご挨拶

皆さま、明けましておめでとうございます。新年早々であるにも拘らず私共の創立25周年記念演奏会に多くの皆様にお運びいただき御礼申し上げます。

思い起こせばこの地に初めてオラトリオ演奏の活動が芽吹いて37年、バッハ生誕300年の1985年に設立された浜松バッハ研究会の活動開始から早四半世紀が経とうとしています。この間マタイやヨハネの両受難曲、口短調ミサ曲などの大曲を手掛けてまいりました。また2000年から2001年の世紀の変わり目を実施したドイツ演奏旅行では、バッハ・ヘンデル縁の地で演奏致しました。なかでもライブチヒでは世界的に知られた聖トーマス教会合唱団に代わって私共が礼拝での演奏を受け持つという大きな栄誉を与えられ、その重責を全うできたことは何物にも代え難い一生の思い出であります。

本日は、昨年が没後250周年であった大作曲家ヘンデルの不朽の名作「メサイア」を演奏しますが、私共にとっては1993年以来二度目のチャレンジとなります。バッハと同年・同地域に生まれたヘンデルですがその音楽・作風は全く異なったスタイルを持っています。私共はほぼ二年間の歳月をかけてこの作品に取り組んで参りました。

我が国オペラ・オラトリオ指揮者としてトップランナーである三澤洋史先生のご指導のもと、かるやかな「癒しのメサイア」をお届けします、長時間とはなりますが皆様どうぞごゆっくりお楽しみください。

最後になりましたが、本日の演奏会開催にあたり、ご協力・ご支援いただいた皆様にメンバー一同、心より感謝申し上げます。

浜松バッハ研究会代表 河野周平

上演曲目

ジョージ・フリデリック・ヘンデル作曲
George Frideric Handel (1685-1759)

オラトリオ「メサイア(救世主)」

THE MESSIAH

第一部 (PART ONE) 第1～21曲 <救世主出現の預言と降誕>

休憩(15分) Intermission (15 Min.)

第二部 (PART TWO) 第22～44曲 <受難から再臨>

第三部 (PART THREE) 第45～53曲 <死者の復活と永遠の生命>

出演者 プロフィール

指揮者：三澤洋史 (みさわ ひろふみ)

群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。1984年ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。バッハに深く傾倒しており、マタイ、ヨハネ両受難曲、口短調ミサ曲など全て暗譜でレパートリーに有する。2000年暮れから2001年初めにかけての浜松バッハ研究会ドイツ演奏旅行では、エアフルト、ハレでの口短調ミサ曲成功に加え、ライプチヒ聖トマス教会の新年音楽礼拝を聖トマス教会聖歌隊に代わり務めた。1999年より2003年までパイロイト音楽祭にて祝祭合唱団の指導スタッフの一員として従事。この経験を生かし、ワーグナーのスペシャリストとして講演や放送の分野でも活躍。2001年9月からは新国立劇場合唱団合唱指揮者に就任。新国立劇場の全公演に合唱指揮者として関わる。2003年9月からの一年間は音楽ヘッド・コーチも兼任。声楽を伴うあらゆる様式の音楽に精通。言葉と音楽、ドラマと音楽の接点を追求している。作品にミュージカル「おにころ」「愛はてしなく」「ナディーヌ」などがある。東京藝術大学、愛知県立芸術大学、京都教育大学非常勤講師や、名古屋芸術大学客員教授、及び滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール専任指揮者などを経て、現在新国立劇場合唱団指揮者、洗足学園音楽大学客員教授。東京バロックスコラーズ音楽監督、浜松バッハ研究会、志木第九の会、名古屋モーツァルト200合唱団常任指揮者。



ソプラノ：國光 朋子 (くにみつ ともこ)

武蔵野音大卒業、愛知県芸大学院首席修了。二期会オペラスタジオ・マスタークラス、新国立劇場オペラ研修所を経て文化庁芸術家在外派遣研修員としてイタリアに留学。F.チレア国際声楽コンクール第2位、日本モーツァルト音楽コンクール第1位、東京音楽コンクール第2位ほか国内外のコンクールで入賞を果たす。オペラでは「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「コシ・ファン・トゥッテ」デスピーナ、「魔笛」パミーナ、「フィガロの結婚」伯爵夫人/スザンナなどに出演。大友直人指揮の東京交響楽団、下野竜也指揮の読売日本交響楽団と共演するなどコンサートソリストとしても活躍している。また宗教曲の分野ではハイドン「ネルソン・ミサ」、モーツァルト、フォーレ「レクイエム」、ベートーヴェン「ミサ・ソレムニス」などに取り組むほか、NHK-FM「名曲リサイタル」に出演するなど、活躍の場を拡げつつある。二期会会員。



メゾソプラノ：三輪 陽子 (みわ ようこ)

愛知県立芸術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。第5回国際ワーグナー歌唱コンクール派遣オーディション最優秀賞受賞。2008年文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアとオーストリアに留学。新国立劇場オペラ公演に「エレクトラ」第2の下女、「愛怨」影巳、「カヴァレリア」ルチア、「西部の娘」ウォークル、「ワルキューレ」シュヴェルトライト役で出演。またコンサートでは、マラー「大地の歌」、ベートーヴェン「第九」のソリストを務める。宗教曲の分野では、バッハ「ヨハネ受難曲」「口短調ミサ曲」、ヘンデル「メサイア」、モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」「八短調ミサ」「ミサ・プレヴィス」、ヴェルディ「レクイエム」、ドヴォルザーク「レクイエム」、ロシーニ「小荘厳ミサ」などでアルトソリストとして活躍している。二期会会員。



テノール：大槻 孝志 (おおつき たかし)

東京藝術大学卒業、同大学院ソロ科修了。04年ノルトハウゼン歌劇場来日公演「アイダ」で本格オペラデビュー。同年日生劇場「後宮からの逃走」、05年新国立劇場「ザザ」、06年新国立劇場「セルセ」、同年アルミンク指揮・新日フィル「火刑台上のジャンヌ・ダルク」に4役で出演。同年9月サイトウ・キネン・メンデルスゾーン「エリア」に出演。同年11月日生劇場「利口な女狐の物語」に出演。07年新国立劇場「フラ・ディアボロ」、同年4月「西部の娘」「ファルスタッフ」、同年9月サイトウ・キネン「スペードの女王」、08年9月には東京二期会「エフゲニー・オネーギン」に出演しその美声を聴衆に強く印象付けた。08年12月には神戸で第九ソロを歌った翌日に急遽代役の要請を受け、N響第九2日目のテノールソロを歌い、N響始まって以来の窮地を救った歌手として高い讃辞を得る。二期会会員。



バリトン：初鹿野 剛 (はつかの たけし)

静岡県出身。東京藝術大学を経て、同大学院音楽研究科修士課程修了。二期会オペラスタジオ・マスタークラス修了。文化庁派遣芸術家在外研修員。ドイツ・カールスルーエ音楽大学演奏家養成課程と修士課程を修了。96年第46回「芸大メサイア」の独唱者としてデビュー以来、交響曲・宗教曲の独唱者として各オーケストラと共演。オペラにおいてもドイツの音楽祭、新国立劇場をはじめとする各プロダクションで活躍。05年日本音楽コンクール声楽部門入選。06年第5回「ワーグナーの声」国際声楽コンクール(イタリア)入選。同年、五島記念文化財団オペラ新人賞受賞。07年、ドイツ・ラインスベルク室内歌劇場声楽コンクール入賞。08年藤沢オペラコンクール第一位・福永賞受賞。ドイツ・ワーグナー奨学財団奨学生。二期会会員、日本演奏連盟会員。





北川靖子

コンサート・ミストレス：北川靖子 (きたがわ きよこ)

W. シュタフォンハーゲン教授に師事。東京藝術大学卒業。1971年、オーストリア国立ウィーン音楽大学入学、ヴァイオリンを F.サモヒール教授に、室内楽を F.ホレチェック教授に師事。1975年、ウィーン音楽大学を全教授一致の最優秀で卒業。ザルツブルク・ミラベル宮殿、東京でリサイタル。1976年、ハンブルク交響楽団に入団、コンサートマスターに就任。1981年、ハンブルク市文化局主催コンサートでリサイタル。1985年12月～91年12月、姉・北川暁子と25回の「ドゥオの夕べ」を開催。1987年、東京でリサイタル。1989年、北川暁子、千本博愛と「セルヴェ・トリオ」を結成、以後毎年演奏会を開催。1992年以降は北川暁子との「ソナタの夕べ」を毎年開催している。現在、2001年11月に高松に設立された瀬戸フィルハーモニー交響楽団コンサートミストレス。浜松バッハ研究会・管弦楽団には1985年の創立以来、ほとんどの演奏会に参加。



オルガン：花井 淑 (はな い とし)

三重県桑名市生まれ。名古屋音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専修卒業。同大学卒業演奏会、三重県新人演奏会に出演。また、大学在学中より名古屋・カトリック五反城教会に於いてパイプオルガンの勉強を始め、オルガンを住山久爾子、本多七瀬、故 F.ボーンの名氏に師事。また、Z.サットマリー、故 A.シェーンシュテット、H.フォーゲルの諸氏によるオルガン・マスタークラスに参加。1982年～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。東京福祉大学非常勤講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会、日本リードオルガン協会、立教大学教会音楽研究所友の会、名古屋バロック音楽協会各会員。ソリスト及び通奏低音奏者として活躍中。2000年10月、岐阜県民ふれあい会館サラマンカホールに於いて、故高円宮殿下、同妃殿下のホールご視察の際には御前演奏をした。浜松バッハ研究会の演奏会には1996年の「マタイ受難曲」以来、ほぼ毎回参加し、2000年暮れから2001年初頭にかけてはドイツ演奏旅行にオルガニストとして同行し、ライブチヒ・聖トーマス教会の新年音楽礼拝で演奏した。三重県桑名市在住。

チェロ独奏 神農清志

トランペット独奏 ロジャー・マナーズ

浜松バッハ研究会・管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、カペラ・アカデミカ、ソナス・アンサンブル、浜松バロック協会、掛川市民オーケストラ、ヤマハ吹奏楽団などから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらずレベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

1 st Violin	北川靖子	小澤規子	篠田侑香里	中村尚子	中林尚之
2 nd Violin	小野弘達	釘本英範	田邑利香	東儀 温	
Viola	中谷 宏	五家和夫	小林 勝	小林はる奈	
Cello	神農清志	小野祐子	西村美菜子		
Contra Bass	田邑元一				
Oboe	村瀬正巳	大橋弥生			
Fagotto	曾布川利貞				
Trumpet	ロジャー・マナーズ		庭田俊一		
Timpani	笹竹 裕				

浜松バッハ研究会・合唱団

バッハ生誕300周年の1985年に結成され、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、口短調ミサ曲などの大作や、クリスマス・オラトリオ、カンタータ、モテットなどを取り上げ、管弦楽団と共に上演している。2000年にドイツ演奏旅行を行いライブチヒの聖トーマス教会で演奏した。常任指揮者としてバッハの権威である新国立劇場指揮者の三澤洋史氏を招き、バッハの音楽を深く学びつつその魅力を多くの皆様にお伝えすべく、姉妹団体である豊橋バッハアンサンブルと共に活動を続けている。

練習指揮者	萩野 潔	ピアノ伴奏者	宮本いずみ			
Soprano	青木真美	浅野朋子	今村陽子	河合良子	河合洋子	川瀬綾子
	木下まり子	戸島美湖	萩野美雪	早川美香	吉井康子	
Alto	阿部恭子	飯田素子	門林映美	鬼頭計枝	國井みさえ	小松ゆずる
	鈴木理恵	鈴木瑠美子	竹原孝子	永田陽子	山田セキ子	
Tenor	門林義幸	柴原貞幸	鈴木美穂	鈴木洋一	早川徳次	松下洋一
Bass	河野周平	重富政秀	四童子広臣	萩野 潔	横山 茂	

豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理...という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身。毎週豊橋で練習し、三澤先生の練習があるときは、浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に参加している。

練習指揮者	田辺菜美子	ピアノ伴奏者	高木克子			
Soprano	金子ますみ	白井登枝江	三宅ゆりの			
Alto	安藤美津恵	伊藤道子	浪崎加代	彦坂克美	馬淵京子	
Tenor	川口 強					
Bass	安藤佑治	駒沢真司	安井研一			

演奏会スタッフ

ステージ・マネージャー	内海直人	フロア・マネージャー	河野真剛				
大石泰由	小貫勇作	金子恒江	河野善子	川田和秀	川田咲度	川村有香	黒田浩子
小池敦子	志村憲宏	白浜太郎	鈴木秀明	長谷川明子	長谷川正仁	丸山みな子	

合唱団メンバー募集

2010年練習予定曲目

J. S. バッハ「マニフィカート」BWV 243a ほか

浜松バッハ研究会

練習日：毎週土曜日 19:00～21:30
会 場：なゆた浜北/積志公民館
会 費：月額 2,500 円
連絡先：河野周平 053-585-3364

<http://music.geocities.jp/hamamatsubach/>

豊橋バッハアンサンブル

練習日：毎週金曜日 20:00～22:00
会 場：新川小学校
会 費：月額 2,500 円
連絡先：安井研一 0532-47-0676

<http://www.geocities.jp/bach0532/>

蕎麦屋のカレーは案外うまい。「案外」という言葉を使うのは、蕎麦屋はカレー屋ではないから、僕たちは蕎麦屋においしいカレー・ライスを期待していないからだ。でも、蕎麦屋にはカレーうどんもあるから、案外カレーをきちんと作っている。それでどこの蕎麦屋でもカレー・ライスが案外うまいのである。

同じように、バッハを専門に活動している浜松バッハ研究会のヘンデルも案外うまい。それは、いつもヘンデルの音楽をやっているわけではないけれど、その代わりバッハの音楽には精通しているから、同時代の作曲家であるヘンデルの演奏も案外うまいのである。

バッハの音楽を雰囲気やエモーショナルな面からアプローチしても、十分な作品への理解には辿り着けない。バッハの音楽の作り方は、ショパンなどのように私生活や個人的な心情の発露といった情緒的な世界とは全く違う。バッハは、ひとつのメロディーを発展させる時、その論理性や構築性に配慮しながら、あたかも大きな建築物を造るように作曲していく。そうして表現されたものは、感情、知性などのバランスがとれた崇高で普遍的な音楽のたたずまいを持っている。

このようなバッハへのアプローチに慣れている浜松バッハ研究会は、ヘンデルに向かう時もまず構造から入っていく。これは正しい。ヘンデルも元来ドイツ人であるから、特にメサイアのような長大な作品を作る時には、構造を大切にしているからだ。

ただ、バッハと全く同じアプローチのみでいこうとすると不十分だ。このところをおさえておかないと、「ああ、やっぱり蕎麦屋のカレーでしかないのね。」

と言われてしまう。では一体ヘンデルはバッハとどう違い、どの点に留意して演奏しなければならないのか？それを語るためには、バッハとヘンデルの人間としての違いに触れなければならない。

バッハとヘンデルは奇しくも同じ 1685 年にドイツで生まれているが、その生涯はまさに正反対とも言える。バッハは一生を通じてほとんどドイツ国外に出たことがないし、その作風も、フランスやイタリアの様々なスタイルを取り入れてはいるものの、基本的にはドイツの重厚さを持っている。一方、ヘンデルは、いち早くドイツを飛び出してイタリアに渡ってオペラを書き、後年はロンドンに住んでイギリス人としての国籍を取得し、帰化した。

バッハが声楽作品の歌詞に使用した言語は圧倒的にドイツ語が多く、ついでラテン語である。それに対して、オペラ作曲家として一世を風靡したヘンデルの場合は、なんといってもイタリア語である。その次は恐らく英語。その後初めてドイツ語が来るとされる。

このようにヘンデルは、ドイツ人であるということを離れて、とても開かれたインターナショナルな意識を持っていた。さらにヘンデルは、オペラという、聴衆がダイレクトに反応し評価を下すジャンルに身を置いていた。だからと言い切ってしまうといいかどうか分らないが、ヘンデルの作風は、バッハよりずっと軽やかであり、メロディーはシンプルで親しみやすい。フーガはバッハほど晦渋ではなく、聴いている方が窮屈を感じる頃には、美しい和声音楽になってホッとさせる。

つまり、聴衆におもねることなく、聴衆の気持ちになって曲を作っているのだ、どこの国の誰が聴いても抵抗なく心の中に入り込んでくる。すなわちヘンデルの場合、音楽も彼の人間と同じにコスモポリタンなのである。

それと、なんといってもヘンデルの特徴といたら、どのフレーズにも流れている“癒し系のサウンド”だ。それはヘンデルの音楽が流れている空間をまるでやさしいそよ風のように吹き渡っていく。この癒し系サウンドが表現できなければ、ヘンデルを演奏したとはいえない。バッハのように曲に挑むという感じではいけないし、重厚になり過ぎてはいけない。

浜松バッハ研究会の演奏するヘンデルが案外いいかそうでないか、以上の点に留意して聴いて下さい……というよりね……僕はこう思う。本当は蕎麦屋のカレーとか考えなくてもいいのかもしれない。世の中には、とどのつまりはおいしいカレーとそうでないカレーしかないのだ。ヘンデルを演奏するのだから、もうバッハがどうかというより、ヘンデルの真実にどう肉薄するか、それしかありませんな。

ちなみに、僕はヘンデルを演奏すると、いつもとてもしあわせな気分になる。ヘンデルという人はきっとおおらかで包容力のあるあたたかい人だったに違いない。そのしあわせな気分が、今日来てくれたみなさんの心に、まるで熱燗の銘酒が胃の中にほわーっと広がっていくようにやさしく広がっていったら、もうそれ以上何も望まない。

そんなしあわせの連鎖。もしかしたら、僕はそのために音楽家になったのかも知れないのだから……。

曲 目 解 説

MAJORA CANAMUS

And without Controversy,
great is the Mystery of Godliness:
God was manifested in the Flesh,
justified by the Spirit,
seen of angels,
preached among the Gentiles,
believed on in the World,
received up into Glory.
In whom
are hid all the Treasures
of Wisdom and Knowledge.

いざ、大いなることを歌おう。

たしかに
信仰の神秘は偉大です。
神は肉体としてこの世に現われ、
聖霊によって義とされ、
天使たちに見守られ、
諸国民の間で宣べ伝えられ、
世界中で信じられ、
そして栄光のうちに天上へと召されました。
この神の中に、
知恵と知識の財宝が秘められています。

上記の文章は、ヘンデル自身が主催した「メサイア」演奏会で、プログラムの表紙に掲載された序文です(対訳-「メサイア」ハンドブック/著:三ヶ尻 正より)。ここでは、この曲の理解の助けとなる説明をいくつかご紹介しておきます。

歌詞(台本) チャールズ・ジェネズ(1770-1773)による聖書からの抜粋、旧約聖書からの引用が多いです。

初 演 1742年 4月13日(火)、ダブリンにて。

オラトリオ 「メサイア」の音楽は形式的にはオラトリオです。そのオラトリオとはどういうものかという「おおむね宗教的な題材による大規模な叙事的楽曲で、独唱・合唱・管弦楽を用い、音楽は劇的に作られているが、動作や背景・衣装は使用しない」(新訂標準音楽辞典:音楽之友社)。しかし、「メサイア」は、その台本が聖書の句を殆どそのまま、有機的に組み合わせられているとはいえ、断片的に引用されたものであるため、役柄としての登場人物は一部を除いてほとんど無く、劇としての筋書も明確ではない、オラトリオとしては極めて異色のものと言えます。

メサイア ヘブル語でメシア、『油を注がれた者』、即ち神によって選ばれた支配者、解放者を指します。「メサイア」は英語式の発音で、この曲では勿論イエスのことですが、曲中イエス(Jesus)の名が出て来るのは第51曲のみです。

作曲者: G.F.ヘンデル ドイツのハレ生まれ。1710年末に渡英、以後オペラ・オラトリオ等音楽分野を中心に活躍しました。一般には「水上の音楽」や「調子の良い鍛冶屋」を含むハープシコード組曲等の器楽曲の方が有名でしょうか。彼が埋葬されたロンドンのウェストミンスター寺院内にある記念碑のヘンデル像は、「メサイア」第45曲(第3部序曲)の譜面を携えています。



ウェストミンスター寺院内にあるヘンデル像

「メサイア」対訳 編集:萩野 潔

第1部 Part One

緩 - 急 - 緩のフランス風序曲仕立ての第1曲の後は、以下のようになっています。

- 第 2～11 曲 救世主降誕の予言
- 第 12～17 曲 救世主降誕の場面
- 第 18～21 曲 救世主来臨の意図の説明

No.1 Sinfonia

No.2 Accompnato-Tenor

Comfort ye, comfort ye my people,
saith your God.
Speak ye comfortably to Jerusalem,
and cry unto her,
that her warfare is accomplish'd
that her iniquity is pardon'd.
The voice of him that crieth in the wilderness:
Prepare ye the way of the Lord,
make straight in the desert
a highway for our God. (Isaiah 40.1-3)

- * 下線部 当時の命令文。ye は古語で2人称複数形の主格および目的格です。
- * 二重下線部 当時の動詞の3人称単数現在形です。
- * 波線部 聖書によっては次の行にかかり、「荒野で主の道を整えよ。」となります(参考文献)。

No.3 Aria-Tenor

Ev'ry valley shall be exalted,
and ev'ry mountain and hill made low,
the crooked straight,
and the rough places plain. (Isaiah 40.4)

No.4 Chorus

And the glory of the Lord shall be revealed,
and all flesh shall see it together,
for the mouth of the Lord hath spoken it.
(Isaiah 40.5)

No.5 Accompagnato-Bass

Thus saith the Lord of hosts:
Yet once, a little while,
and I will shake the heav'ns, and the earth,
the sea, and the dry land,
and I will shake all nations,
and the desire of all nations shall come.
(Haggai 2.6-7)
The Lord, whom ye seek,
shall suddenly come to his temple,
ev'n the messenger of the covenant,
whom ye delight in, behold, he shall come,
saith the Lord of hosts. (Malachi 3.1)

No.6 Aria-Alto

But who may abide the day of his coming,
and who shall stand when he appeareth?
For he is like a refiner's fire.
(Malachi 3.2)

第1曲 シンフォニア

第2曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

「慰めよ。慰めよ。私の民を。」と
あなた方の神は仰せられる。
「エルサレムに優しく語りかけ、
これに呼びかけよ。
その労苦は終り、
その咎は償われたと。」
荒野に呼ばれる者の声がする。
「主の道を整えよ。
荒れ地で、私達の神のために
大路を真直ぐにせよ。」(イザヤ 40.1-3)

第3曲 アリア・テノール

全ての谷は埋め立てられ、
全ての山や丘は低くされる。
起伏のある地はまっすぐに、
険しい地は平野とされる(イザヤ 40.4)

第4曲 合唱

そして主の栄光が現われ、
全ての者が共にこれを見る。
主の口がそう語られたからだ。
(イザヤ 40.5)

第5曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス

万軍の主はこう仰せられる。
「しばらくしたら、再び
私は天と、地と、
海と、陸とを揺り動かす。
更に私が全ての国々を揺り動かすと、
全ての国々の願いは叶うだろう。」
(ハガイ 2.6-7)
「あなた方がたずね求めている主が、
突然その神殿に来る。
あなた方が望んでいる契約の使者が、
見よ、来られる。」
と万軍の主は仰せられる。(マラキ 3.1)

第6曲 アリア・アルト

しかし誰が彼の来る日に耐えられよう。
誰が彼の現われる時立っていられよう。
彼は精練する者の火のようだからである。
(マラキ 3.2)

No.7 Chorus

And he shall purify the sons of Levi,
that they may offer unto the Lord
an offering in righteousness. (Malachi 3.3)

No.8 Recitativo-Alto

Behold, a virgin shall conceive, and bear a son,
and shall call his name Emmanuel,
'GOD WITH US'.
(Isaiah 7.14 or Matthew 1.23)

* 下線部 マタイ伝にのみ記述されています。

No.9 Aria-Alto & Chorus

O thou that tellest good tidings to Zion,
get thee up into the high mountain,
O thou that tellest good tidings to Jerusalem,
lift up thy voice with strength,
lift it up, be not afraid,
say unto the cities of Judah: Behold your God!
(Isaiah 40.9)

Arise, shine; for thy light is come,
and the glory of the Lord is risen upon thee.
(Isaiah 60.1)

O thou that tellest good tidings to Zion,
good tidings to Jerusalem,
Arise, say unto the cities of Judah:
Behold your God!
the glory of the Lord is risen upon thee.

* 下線部 thou - 古語の2人称単数形の主格、thy - thou の所有格、thee - thou の目的格です。

* 二重下線部 原形は tell。当時動詞は2人称単数現在形でも変化しました
(第 32・34・36・43 曲の項参照)。

* 波線部 今日では'don't be afraid'というところです。

No.10 Accompagnato-Bass

For behold, darkness shall cover the earth,
and gross darkness the people:
but the Lord shall arise upon thee,
and his glory shall be seen upon thee.
And the Gentiles shall come to thy light,
and kings to the brightness of thy rising.
(Isaiah 60.2-3)

No.11 Aria-Bass

The people that walked in darkness
have seen a great light:
and they that dwell in the land
of the shadow of death,
upon them hath the light shined. (Isaiah 9.2)

No.12 Chorus

For unto us a child is born,
unto us a Son is given,
and the government shall be upon his shoulder,
and his name shall be called:
Wonderful, Counsellor,
The mighty God, The everlasting Father,
The Prince of Peace! (Isaiah 9.6)

* 下線部 聖書では'Wonderful Counsellor' 「不思議な助言者」となっています。

第7曲 合唱

そしてこの方はレビの子らを清める。
すると彼等は主に義の捧げ物を捧げる者となる。
(マラキ 3.3)

第8曲 レチタティーヴォ・アルト

見よ、処女が身ごもり男の子を生む。
その子はインマヌエルと名付けられる。
「神は私達と共におられる」という意味である。
(イザヤ 7.14 またはマタイ 1.23)

第9曲 アリア・アルトと合唱

シオンに良い知らせを伝える者よ、
高い山に登れ。
エルサレムに良い知らせを伝える者よ、
力の限り声を上げよ。
声を上げよ、恐れるな。
ユダの町々に「見よ、あなた方の神を。」と言え。
(イザヤ 40.9)

起きよ、光を放て。あなたの光が来て、
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。
(イザヤ 60.1)

シオンに良い知らせを伝える者よ、
エルサレムに良い知らせを伝える者よ、
起きよ、ユダの町々に言え、
「見よ、あなた方の神を。」と。
主の栄光があなたの上に輝いているからだ。

第10曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス

見よ、闇が地を覆い、
暗闇が諸国の民を覆っている。
しかしあなたの上には主が輝き、
その栄光があなたの上に現われる。
国々はあなたの光のうちに歩み、
王達はあなたの朝日の輝きに照らされて歩む。
(イザヤ 60.2-3)

第11曲 アリア・バス

闇の中を歩んでいた民は、
大きな光を見た。
死の陰の地に住んでいた者達の上に
光が照った。(イザヤ 9.2)

第12曲 合唱

ひとりのみどりごが私達のために生まれる。
ひとりの男の子が私達に与えられる。
主権は彼の肩にあり、
彼の名はこう呼ばれる。
「不思議、助言者、
全能の神、永遠の父、
平和の君」と。(イザヤ 9.6)

No.13 Pifa (Pastral Symfony)

No.14 Recitativo-Soprano

There were shepherds abiding in the field,
keeping watch over their flock by night. (Luke 2.8)

Accompagnato-Soprano

And lo, the angel of the Lord came upon them
and the glory of the Lord
shone round about them
and they were sore afraid. (Luke 2.9)

* 下線部 'look'と同意に用いられました。

No.15 Recitativo-Soprano

And the angel said unto them:

Fear not; for behold,
I bring you good tidings of great joy,
which shall be to all people.
For unto you is born this day,
in the city of David, a Saviour,
which is Christ the Lord. (Luke 2.10-11)

* 下線部 'Don't fear'と同意です。

No.16 Accompagnato-Soprano

And suddenly there was with the angel
a multitude of the heav'nly host,
praising God, and saying: (Luke 2.13)

No.17 Chorus

Glory to God in the highest,
and peace on earth,
good will towards men.

(Luke 2.14)

* 下線部 聖書では'and on earth peace among men with whom He is pleased'「地においては、み心にかなう人々に平和があるように。」となっています。

No.18 Aria-Soprano

Rejoice greatly, o daughter of Zion,
shout, o daughter of Jerusalem,
behold, thy King cometh unto thee:
he is the righteous Saviour,
and he shall speak peace unto the heathen.
(Zechariah 9.9-10)

No.19 Recitativo-Alto

Then shall the eyes of the blind be open'd
and the ears of the deaf unstopped;
then shall the lame man leap as an hart,
and the tongue of the dumb shall sing.
(Isaiah 35.5-6)

No.20 Aria-Alto

He shall feed his flock like a shepherd,
and he shall gather the lambs with his arm;
and carry them in his bosom,
and gently lead those that are with young.
(Isaiah 40.11)

Aria-Soprano

Come unto him, all ye that labour,
come unto him, that are heavy laden,
and he will give you rest.
Take his yoke upon you, and learn of him,
for he is meek and lowly of heart,
and ye shall find rest unto your souls.
(Matthew 11.28-29)

* 下線部 聖書ではここはイエスの言葉の一部ですので、全て第1人称「私」となっています。

第13曲 田園曲

第14曲 レチタティーヴォ・ソプラノ

羊飼い達が野宿で夜番をしながら
羊の群れを見守っていた。(ルカ 2.8)

伴奏付きレチタティーヴォ・ソプラノ

すると見よ、主の使いが彼等のところに来て、
主の栄光が回りを照らしたので、

彼等はひどく恐れた。(ルカ 2.9)

第15曲 レチタティーヴォ・ソプラノ

すると御使いは彼等に言った。

「恐れるな、見よ。

私は全ての人達にとって

素晴らしい喜びを伝えるからである。

今日ダビデの町で、あなた方のために、

救い主がお生まれになる。

この方が主キリストである。」(ルカ 2.10-11)

第16曲 伴奏付きレチタティーヴォ・ソプラノ

するとたちまち、その御使いと一緒に、

多くの天の軍勢が現われて、

神を賛美して言った。(ルカ 2.13)

第17曲 合唱

いと高き所には神に栄光がありますように。

地には平和が、

人々には神のみ恵みがありますように。

(ルカ 2.14)

* 下線部 聖書では'and on earth peace among men with whom He is pleased'「地においては、み心にかなう人々に平和があるように。」となっています。

第18曲 アリア・ソプラノ

大いに喜べ、シオンの娘よ。

喜び叫べ、エルサレムの娘よ。

見よ、あなた方の王があなたの所に来られる。

この方は正しき救い主で、

異教の民に平和を告げられる。

(ゼカリヤ 9.9-10)

第19曲 レチタティーヴォ・アルト

その時、目が見えぬ者の目は開かれ、

耳の聞こえぬ者の耳は開けられる。

その時、歩けぬ者は鹿のように飛びはね、

口がきけぬ者の舌は歌う。

(イザヤ 35.5-6)

第20曲 アリア・アルト

主は羊飼いのようにその群れを飼い、

御腕に子羊を引き寄せ、

懐に抱き、

子を連れるものを優しく導く。

(イザヤ 40.11)

アリア・ソプラノ

全ての疲れた人は彼の所へ来なさい。

重荷を負っている人は彼の所へ来なさい。

彼があなたを休ませてくれる。

あなた方も彼のくびきを負って、彼に学びなさい。

彼は心優しく、へりくだった者だからである。

されば魂は安らぐだろう。

(マタイ 11.28-29)

No.21 Chorus

His yoke is easy, (and) his burthen is light.
(Matthew 11.30)

- * 下線部 これも前曲で引用されたイエスの台詞の続きで、聖書では全て第1人称「私の」となっています。
* 二重下線部 burden の古語です。

第21曲 合唱

彼のくびきは負いやすく、彼の荷は軽い。
(マタイ 11.30)

第2部 Part Two

第1部序曲同様の付点音形からなる第22曲は、歌詞の内容ともども第2部序曲の役割りを果たします。その後は、
第23～31曲 救世主の受難
第32～36曲 救世主の復活
第37～44曲 福音の流布、および神の勝利
となります。第2部終曲は「メサイア」中最も有名な曲で、「ハレルヤ・コーラス」として単独でも上演されます。

No.22 Chorus

Behold the Lamb of God
that taketh away the sin of the world.
(John 1.29)

第22曲 合唱

見よ、神の小羊。
世の罪を取り除きたまう。
(ヨハネ 1.29)

No.23 Aria-Alto

He was despised and rejected of men,
a man of sorrows, and acquainted with grief:
(Isaiah 53.3)
He gave his back to the smiters,
and his cheeks to them that plucked off the hair,
He hid not his face from shame and spitting.
(Isaiah 50.6)

第23曲 アリア・アルト

彼はさげすまされ、人々から除け者にされ、
悲しみの人で苦痛を知っていた。
(イザヤ 53.3)
彼は自らの背中を鞭打つ者にまかせ、
自らの頬をひげを抜くものにまかせ、
侮辱やつばきに対しても顔を隠さなかった。
(イザヤ 50.6)

- * 下線部 聖書では全て第1人称「私」となっています。

No.24 Chorus

Surely, he hath borne our griefs
and carried our sorrows:
he was wounded for our transgressions,
he was bruised for our iniquities:
the chastisement of our peace was upon him;
(Isaiah 53.4-5)

第24曲 合唱

まことに、彼は私達の苦痛を負い、
私達の悲しみを担った。
彼は私達の背きの罪のために刺し通され、
私達の咎のために砕かれた。
彼への懲らしめが私達に平安をもたらした。
(イザヤ 53.4-5)

No.25 Chorus

And with his stripes we are healed.
(Isaiah 53.5)

第25曲 合唱

彼の打ち傷により私達は癒された。
(イザヤ 53.5)

- * モーツァルトの「レクイエム」:K626 中の「キリエ」の主題が、この曲の主題に酷似しています。

No.26 Chorus

All we like sheep have gone astray,
we have turned ev'ry one to his own way;
and the Lord hath laid on him
the iniquity of us all. (Isaiah 53.6)

第26曲 合唱

私達は皆、羊のようにさまよい、
各々、自分勝手な道に向かって行った。
そして主は私達の全ての咎を彼に負わせた。
(イザヤ 53.6)

No.27 Accompagnato-Tenor

All they that see him, laugh him to scorn;
they shoot out their lips,
and shake their heads, saying, (Psalm 22.7)

第27曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

彼を見る者は皆、彼をあざけり、
彼等は口をとがらせ、
頭を振り、言う。(詩篇 22.7)

- * 下線部 聖書では全て第1人称「私」となっています。

No.28 Chorus

He trusted in God
that he would deliver him,
let him deliver him,
if he delight in him.
(Psalm 22.8)

第28曲 合唱

彼は神に身を任せただから
神が彼を助ければ良い。
彼が神のお気に入りなら、
神に彼を救い出させよ。
(詩篇 22.8)

No.29 Accompagnato-Tenor

Thy rebuke hath broken his heart;
he is full of heaviness,
he looked for some to have pity on him,
but there was no man,
neither found he any to comfort him.
(Psalm 69.20)

* 下線部 聖書では全て第1人称「私」となっています。

No.30 Arioso-Tenor

Behold, and see if there be any sorrow
like unto his sorrow. (Lamentation 1.12)

* 下線部 聖書では第1人称「私」となっています。

No.31 Accompagnato-Soprano

He was cut off out of the land of the living;
for the transgression of thy people
was he stricken. (Isaiah 53.8)

* 下線部 聖書では第1人称「私の」となっています。

No.32 Aria-Soprano

But thou didst not leave his soul in hell:
nor didst thou suffer thy Holy One
to see corruption. (Psalm 16.10)

* 下線部 聖書では第1人称「私の」となっています。

No.33 Chorus

Lift up your heads, o ye gates,
and be ye lift up, ye everlasting doors
and the King of glory shall come in.
Who is this King of glory?
The Lord strong and mighty,
the Lord mighty in battle.
Lift up your heads, o ye gates,
and be ye lift up, ye everlasting doors
and the King of glory shall come in.
Who is this King of glory?
The Lord of hosts,
he is the King of glory.
(Psalm 24.7-10)

No.34 Recitativo-Tenor

Unto which of the angels said he at any time,
Thou art my Son, this day have I begotten thee?
(Hebrew 1.5)

No.35 Chorus

Let all the angels of God worship him.
(Hebrew 1.6)

No.36 Aria-Alto

Thou art gone up on high,
Thou hast led captivity captive,
and received gifts for men,
yea, even for thine enemies,
that the Lord God might dwell among them.
(Psalm 68.18)

* 下線部 母音または h 音で始まる名詞の前では'thy'に変わって'thine'が用いられました。

第 29 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・テノール

そしりが彼の心を打ち砕き、
彼はひどく病んでいる。
彼は同情者を待ち望んだが、
ひとりもいなかった。
慰める者を待ち望んだが見出だせなかった。
(詩篇 69.20)

第 30 曲 アリオソ・テノール

彼にくだされたほどの悲しみが他にあるか。
(哀歌 1.12)

第 31 曲 伴奏付きレチタティーヴォ・ソプラノ

彼は生ける者の地から絶たれた。
彼があなたの民の背きの罪により打たれたからだ。
(イザヤ 53.8)

第 32 曲 アリア・ソプラノ

しかしあなたは彼の魂を陰府に捨て置かず、
あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはならない。
(詩篇 16.10)

第 33 曲 合唱

頭を上げよ、門よ、
上がれ、永遠の戸よ、
栄光の王が入って来られる。
栄光の王とは誰か？
強く、力ある主、
戦いに力ある主。
頭を上げよ、門よ、
上がれ、永遠の戸よ、
栄光の王が入って来られる。
栄光の王とは誰か？
万軍の主、
これぞ栄光の王
(詩篇 24.7-10)

第 34 曲 レチタティーヴォ・テノール

神はかつてどの御使いに対してこう言われたのか。
「あなたは私の子、今日私があなたを生んだ。」
(ヘブル人への手紙 1.5)

第 35 曲 合唱

神の御使いは皆彼を拝みなさい。
(ヘブル人への手紙 1.6)

第 36 曲 アリア・アルト

あなたはいと高き所に上り、
捕らわれたものを虜にし、
みつぎを人々からも、
敵対する者どもからさえも、受けられた。
神なる主がそこに住まわれるためである。
(詩篇 68.18)

No.37 Chorus

The Lord gave the word;
great was the company of the preachers.
(Psalm 68.11)

No.38 Aria-Soprano

How beautiful are the feet of them
that preach the gospel of peace,
and bring glad tidings of good things.
(Isaiah 52.7 or Roman 10.15)

No.39 Chorus

Their sound is gone out into all lands,
and their words unto the ends of the world.
(Psalm 19.4 or Roman 10.18)

No.40 Aria-Bass

Why do the nations so furiously rage together,
why do the people imagine a vain thing?
The kings of the earth rise up,
and the rulers take counsel together
against the Lord and against his Anointed.
(Psalm 2.1-2)

No.41 Chorus

Let us break their bonds asunder,
and cast away their yokes from us. (Psalm 2.3)

No.42 Recitativo-Tenor

He that dwelleth in heaven
shall laugh them to scorn,
the Lord shall have them in derision. (Psalm 2.4)

No.43 Aria-Tenor

Thou shalt break them with a rod of iron,
Thou shalt dash them in pieces
like a potter's vessel. (Psalm 2.9)

No.44 Chorus

Halleluja,
for the Lord God omnipotent reigneth.
(Revelation 19.6)
The kingdom of this world is become
the kingdom of our Lord and of his Christ,
and he shall reign for ever and ever.
(Revelation 11.15)
KING OF KINGS, AND LORD OF LORDS.
(Revelation 19.16)

第 37 曲 合唱

主は御言葉を賜った。
おとずれを告げる者の群れは大いなるものである。
(詩篇 68.11)

第 38 曲 アリア・ソプラノ

なんと美しきことよ、
平和を告げ、
良いことのおとずれを伝える人々の足は。
(イザヤ 52.7 またはローマ人への手紙 10.15)

第 39 曲 合唱

その声は全地に響き渡り、
その言葉は地の果てまで届いた。
(詩篇 19.4 またはローマ人への手紙 10.18)

第 40 曲 アリア・バス

なぜ国々は騒ぎ立ち、
国民はむなしいことを思うのか。
地の王たちは立ち構え、
治める者たちは相ともに集まり、
主と香油を注がれた者と共に逆らう。
(詩篇 2.1-2)

第 41 曲 合唱

さあ彼等のかせを打ち砕き、
彼等の綱を解き捨てよう。(詩篇 2.3)

第 42 曲 レチタティーヴォ・テノール

天の御座に着いておられる方は
彼等を笑われる。
主はその者どもをあざけられる。(詩篇 2.4)

第 43 曲 アリア・テノール

あなたは鉄の杖で彼等を打ち砕き、
焼き物の器のように粉々にする。
(詩篇 2.9)

第 44 曲 合唱

ハレルヤ、
全能にして神なる主の御支配に。
(黙示録 19.6)
この世の国は
私達の主およびそのキリストのものとなった。
主は永遠に支配なされる。
(黙示録 11.15)
王達の王、主らの主。
(黙示録 19.16)

* A=1, B=2, C=3...という数え方をすると BACH が 14(B=2,A=1,C=3,H=8,2+1+3+8=14) となることは有名ですが、この方法で HANDEL を計算すると 44(H=8, A=1, N=14, D=4, E=5, L=12, 8+1+14+4+5+12=44) となります。しかしその後の調べで、ヘンデルはドイツ語では HÄNDEL となり、これを数字に置き換えるには、ウムラウト付きの母音文字には 1 を加えるため、45 となる、即ち次のソプラノ・アリアの曲番号と一致することがわかりました。そう言えばロンドン: ウェストミンスター寺院内のヘンデルの墓に作られた彼の立像が持っている譜面は次の第 45 曲です。

第3部 Part Three

第3部は救世主復活による死者の魂の蘇りを中心に、終曲では神と救世主への賛美が歌われます。

No.45 Aria-Soprano

I know that my redeemer liveth,
and that he shall stand
at the latter day upon the earth.

And though worms destroy this body,
yet in my flesh shall I see God. (Job 19.25-26)
For now is Christ risen from the dead,
the firstfruits of them that sleep.
(Corinthian-1 15.20)

* 下線部 聖書では 'and after my skin has been thus destroyed' 「私の皮が、このようにはぎ取られて後」となっています。

No.46 Chorus

Since by man came death,
by man came also the resurrection of the dead.
For as in Adam all die,
even so in Christ shall all be made alive.
(Corinthian-1 15.21)

No.47 Accompagnato-Bass

Behold, I tell you a mystery;
We shall not all sleep,
but we shall all be chang'd, In a moment,
in the twinkling of an eye, at the last trumpet.
(Corinthian-1 15.51-52)

No.48 Aria-Bass

The trumpet shall sound,
and the dead shall be raised incorruptible,
and we shall be changed.
For this corruptible must put on incorruption,
and this mortal must put on immortality.
(Corinthian-1 15.52-53)

No.49 Recitativo-Alto

Then shall be brought to pass the saying
that is written;
Death is swallow'd up in victory.
(Corinthian-1 15.54)

No.50 Duet-Alto & Tenor

O death, where is thy sting.
O grave, where is thy victory?
The sting of death is sin,
and the strength of sin is the law.
(Corinthian-1 15.55-56)

No.51 Chorus

But thanks be to God,
who giveth us the victory
through our Lord Jesus Christ.
(Corinthian-1 15.57)

第45曲 アリア・ソプラノ

私は知っている。私を贖う方は生きておられ、
後の日に地の上に立たれる。

たとえうじ虫が私の肉体を食い尽くしても、
私は私の体から神を見る。(ヨブ 19.25-26)
今やキリストは死者の中から蘇られ、
眠ったものの初穂となられた。
(コリント人への第1の手紙 15.20)

第46曲 合唱

死がひとりの人を通して来たように、
死者の復活もひとりの人を通して来た。
すなわちアダムにあって全ての人が死ぬように、
キリストによって全ての人が生かされる。
(コリント人への第1の手紙 15.21-22)

第47曲 伴奏付きレチタティーヴォ・バス

見よ、私はあなた方に奥義を告げよう。
私達は皆が眠ってしまうのではなく、
皆、一瞬にして変えられるのである。
まばたきの間に、終りのラッパと共に。
(コリント人への第1の手紙 15.51-52)

第48曲 アリア・バス

ラッパが鳴ると、
死者は朽ちないものに蘇り、
私達は変えられる。
朽ちるものは必ず朽ちないものを着ねばならず、
死ぬものは必ず不死を着ねばならないからだ。
(コリント人への第1の手紙 15.52-53)

第49曲 レチタティーヴォ・アルト

聖書に記されている次の御言葉が成就する。
「死は勝利に飲まれてしまった。」
(コリント人への第1の手紙 15.54)

第50曲 デュエット・アルトとテノール

おお死よ、おまえのとげはどこにあるのか。
おお墓よ、おまえの勝利はどこにあるのか。
死のとげは罪であり、
罪の力は律法である。
(コリント人への第1の手紙 15.55-56)

第51曲 合唱

しかし神に感謝すべきである。
神は私達に勝利を与えてくださる。
私達の主イエス・キリストによって。
(コリント人への第1の手紙 15.57)

No.52 Aria-Soprano

If God be for us, who can be against us?

(Roman 8.31)

Who shall lay anything
to the charge of God's elect?

It is God that justifieth.

Who is he that condemneth?

It is Christ that died, yea rather,

that is risen again,

who is at the right hand of God,

who maketh intercession for us.

(Roman 8.33-34)

No.53 Chorus

Worthy is the Lamb that was slain,

(Revelation 5.12)

and hath redeemed us to God by his blood,

(Revelation 5.9)

sto receive power, and riches,

and wisdom, and strength,

and honour, and glory, and blessing.

(Revelation 5.12)

Blessing and honour, glory and pow'r,

be unto him

that sitteth upon the throne,

and unto the Lamb,

for ever and ever. (Revelation 5.13)

Amen. (Revelation 5.14)

第 52 曲 アリア・ソプラノ

神が私達の味方なら、誰が私達に敵対できようか。

(ローマ人への手紙 8.31)

神に選ばれた人々を訴えるのは誰か。

神が義と認めてくださる。

罪に定めようとするのは誰か。

死んで、

蘇られたキリストが、

神の右の座に着き、

私達のためにとりなしてくださる。

(ローマ人への手紙 8.33-34)

第 53 曲 合唱

ほふられた小羊は、

(黙示録 5.12)

その血にて神に対し私達をあがないたもうたゆえ、

(黙示録 5.9)

力と、富と、

知恵と、勢いと、

誉れと、栄光と、賛美を受けるにふさわしい。

(黙示録 5.12)

賛美と誉れと栄光と力が

御座にすわる方と小羊とに

永遠にありますように。(黙示録 5.13)

アーメン(黙示録 5.14)

参考文献:

聖書(新改訳 - 1970 年版、日本聖書刊行会) 1955 年の改訳版よりも、英語版の語順に近いものとなっています。本対訳の大部分はこれに準拠し、語順を英語の台本に更に近付けるべく工夫し、「メサイア」の台本に沿うべく修正を施しました。

The Bible (Revised Standard Version, The British & Foreign Bible Society) 「メサイア」の台本の元になっている聖書のひとつ - King James Version 1611 の改訳版です。

CD「メサイア/トレヴァー・ピノック指揮 (Archiv POCA-2140/1)」の対訳: 永田仁 聖書との相違をはじめ、台本の元になっているもうひとつの聖書 - Great Bible 1539 からの引用の記述が克明です。

CD「メサイア/J.E.ガーディナー指揮 (Philips PHCP-5060/1)」の対訳: 佐藤章 聖書のままでない、C.ジェネズンの台本による「メサイア」の対訳として、編者の知る限り最も信頼できます。

このコンサートに ご協賛・ご支援いただいた方々

チヨタ遠越準一文化振興基金 様 はましん地域振興財団 様

秋山損害保険事務所 様

臼井 溢 様

内山眼科クリニック 様

大城伶子 様

岡部比呂男 様

川島順三 様

金田 諭 様

児玉久司 様

株式会社 スズワ 様

住友生命保険相互会社・浜松支社 様

内藤光子 様

有限会社 直裕殖産 様

彦坂信行 様

三宅税理士事務所 様

山本和子 様

皆さまからの温かいご支援に対し、メンバー一同心から御礼申し上げます。

25年を振り返って

浜松バッハ研究会・演奏活動年譜（主要コンサートののみ）

上演日	上演曲目	指揮者	独唱者	上演会場
1985.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	山本智子/酒井美知江 座光寺哲/渡部成哉	遠州栄光教会
1986.12.22	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	河野周平	坂野多巳子/酒井美知江 西垣俊朗/渡部成哉	遠州栄光教会
1988. 3.21	バッハ「マタイ受難曲」一部割愛	河野周平	西垣俊朗/渡部成哉/石津真理子 佐藤安子/座光寺哲/平野満彦	福祉文化会館
1988.12.26	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第4～6部	河野周平	高田晴代/佐藤安子 座光寺哲/高井 治	遠州栄光教会
1990.10. 7	創立5周年記念コンサート バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	蒲原史子/寺尾美穂/佐藤安子 西垣俊朗/牧野正人	福祉文化会館
1990.12.16	バッハ「クリスマス・オラトリオ」第1～3部	三澤洋史	佐地多美/寺尾美穂 木下基樹/高井 治	遠州栄光教会
1992. 3.22	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	木下基樹/鈴木徹/クラウス・オッカー 山田美津子/佐藤安子	福祉文化会館
1993. 3.21	ヘンデル「メサイア」	三澤洋史	山田美津子/佐藤安子 西垣俊朗/クラウス・オッカー	福祉文化会館
1994. 6.12	「無伴奏合唱への誘い」 W.バード「4声のミサ」 J.S.バッハ:モテト BWV225 & 229	三澤洋史	合唱のみ	遠州栄光教会
1995. 1.22	「ニューイヤーコンサート」バッハ名曲選他 第1部・ヴィクトリアとシュッツのモテト 第2部・J.S.バッハのモテト BWV225 第3部・合唱によるJ.S.バッハの名曲 第4部・J.S.バッハの教会カンタータより	三澤洋史	合唱のみ	遠州栄光教会
1996. 2.18	創立10周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」全曲	三澤洋史	頃安利秀/渡部成哉/山田美津子 佐藤安子/小田 薫/長谷川顯	アクト中ホール
1997. 2.16	バッハ「マニフィカート」 モーツァルト「レクイエム(バイヤー版)」	三澤洋史	田村麻子/小田 薫 西垣俊朗/長谷川顯	アクト中ホール
1998. 4. 5	バッハ:BWV227、BWV106、BWV131他	三澤洋史	小田 薫 /西垣俊朗 /長谷川顯	福祉文化会館
2000. 2.13	バッハ「ミサ曲口短調」	三澤洋史	藤崎美苗/永島陽子 西垣俊朗/長谷川顯	アクト中ホール
2000.12.29-2001.1.8	ドイツ演奏旅行	三澤洋史	藤崎美苗/山下牧子 望月哲也/初鹿野剛	
2000.12.31	ドルンハイム	バルトロメ教会(バッハが結婚式を挙げた教会)	モテット 第6番奉納演奏	
	アルンシュタット	バッハ教会(バッハが最初に職を得た教会)	ジルベスタ・コンサート出演 モテット第6番、カンタータ第171番を演奏	
2001.1.1	アイゼナハ	ゲオルグ教会(バッハが洗礼を受けた教会)	新年礼拝にてクリスマスオラトリオ第4部の合唱曲を演奏	
2001.1.2	エアフルト	シャウシュピールハウス(バッハ一族の本拠地)	「口短調ミサ曲」演奏会開催	
2001.1.3	ナウムブルグ	ヴェンツェル教会(バッハが理想とするオルガンが現存)	モテット 第6番奉納演奏	
2001.1.4	ハレ	マルクト教会(ヘンデルが学び、バッハの息子が活躍)	「口短調ミサ曲」演奏会開催	
2001.1.5	ライブチヒ	聖トーマス教会(バッハが晩年の27年を過ごした聖地)	金曜日のモテットミサ演奏を担当 モテット第6番、カンタータ第171番	
2001.1.6	ライブチヒ	聖トーマス教会	土曜日のモテットミサ演奏を担当 モテット第6番、カンタータ第65番	
2001. 4.22	バッハ「復活祭オラトリオ」BWV249 カンタータBWV80、モテトBWV228 & 230	三澤洋史	藤崎美苗/永島陽子 西垣俊朗/初鹿野剛	アクト中ホール
2003. 2.23	バッハ「ヨハネ受難曲」	三澤洋史	西垣俊朗/小原浄二 藤崎美苗/永島陽子/初鹿野剛	アクト中ホール
2005. 2.23	創立20周年記念コンサート バッハ「マタイ受難曲」	三澤洋史	植木紀夫/長谷川顯 藤崎美苗/永島陽子/初鹿野剛	アクト中ホール
2006.12.23	バッハ「クリスマスオラトリオ」第1～3部	三澤洋史	大谷知佳子/朴 瑛実 西垣俊朗/西垣俊紘	浜松カトリック教会
2007.11.10	「とってBachな午後をあなたに」 バッハ: カンタータ140、147 ミサ曲A-Dur	三澤洋史	飯田みち代/渡部菜津美 神田豊壽/塩入功司	福祉交流センター ホール

1990年10月7日、福祉文化会館での創立5周年記念「口短調ミサ曲」演奏会のプログラムより

浜松バッハ研究会のあゆみー バッハと向き合う18年

浜松バッハ研究会は本年度で創立5周年を迎え、本日の演奏会はその記念として開催いたします。そこで、浜松バッハ研究会の歴史についても語ってみようと思います。

私達が浜松バッハ研究会と名乗るようになってからは5年目ですが、その源流は1973年にまで遡ることとなります。（中略）

それでは以下年代別の歴史をひもいってみましょう。

萌芽期(1973年～)

1973年3月21日はバッハ生誕記念の日のみならず、私どもにとっても記念すべき日であります。今は亡きバッハ演奏の権威濱田徳昭先生のお引き合わせにより、磐田の新井治男氏、豊川の若林学氏、そして浜松から現在浜松バッハ研究会の代表である河野周平氏が一同に会し古典合唱研究会を組織したのがこの日にあたります。以来この地でオラトリオ演奏活動が開始されたのでした。

発展期(1976年～)

その後同研究会は合唱団ポリフォニカ・アンブロジーナへと発展し、豊橋の姉妹団体ポリフォニカ・グレゴリアーナ、管弦楽団カペラ・アカデミカとともに1976年3月21日にはマイ受難曲全曲を浜松で初演するに至りました。

拡張期(1980年～)

1976年から発足していた浜松医科大学合唱部が1979年からは濱田徳昭先生の指導を仰ぐようになり、ポリフォニカ・アンブロジーナやカペラ・アカデミカとの共演により、1980年6月カンタータ(BWV4,140,182)の演奏会を催しました。この頃から古楽器・オリジナル演奏の試みが始まり、浜松医科大学合唱部通称名スコラ・カントルム及びその発展的分離したアカデミア・カントルムと、濱田徳昭先生の率いる日本オラトリオ連盟の合同演奏による、ミサ曲口短調(1983年)、ヨハネ受難曲(1984年)、メサイア・ミサ曲口短調(1985年)が演奏されました。この間、日本オラトリオ連盟の4回の渡欧公演にメンバーの一部が参加しました。

新生期(1985年～)

1985年の公演の後、10年余り浜松地区でオラトリオ演奏の指導にあたって下さった濱田徳昭先生が、今後はモーツァルト、ベートーヴェンの古楽器・オリジナル演奏をしていきたいとのご意思で、アカデミア・カントルムは解散しました。しかしまだまだバッハを歌いたい、という仲間が残り浜松バッハ研究会に集うことになったのです。

時は正にバッハ生誕300年でしたので、12月にクリスマス・オラトリオを演奏すべく準備に入りました。そしてその公演の後、浜松バッハ研究会と会の名称を定め、会規約に基づき運営に無理のない、長続きする音楽活動をめざして会員一同本日までやって参りました。今やっと入り口にたどりついたところですが、本日ご来場いただいた皆様、又有形無形に私共の活動を支えて下さった皆様の御力添により、今後ともバッハの演奏活動を充実したものにすべく努力を重ねて行きたいと思っております。

今村陽子

2001年4月21日、アクト中ホールでのドイツ演奏旅行記念「復活祭オラトリオ」演奏会のプログラムより

2001年1月に行ったライブチ・聖トーマス教会での演奏

今回私達が出演したのは毎週金曜日および土曜日に開かれるモテットミサという恒例の礼拝で、通常は聖トーマス教会合唱団とゲバントハウス管弦楽団が演奏を担当している。奇しくも21世紀最初のモテットミサ(1月5日が金曜日であった)で、トーマス教会合唱団やゲバントハウス管弦楽団に代わって演奏するとは、後から考えると大変なことをしてかしたものである。

私達が演奏する場所はバッハの墓がある祭壇と反対側2階の聖歌隊席である。さらにその聖歌隊席を両側から見下ろすような形で聖歌隊席がある。「マイ受難曲」の二重合唱はこの両側の聖歌隊席で歌われることを念頭にして書かれたということだ。背後には立派なパイプオルガン(バッハオルガン)が教会の中ほどにあった。聖歌隊席で歌うと意外と残響は少ないように感じる。しかし一階の祭壇の前に行くと、まさしく天井から降り注ぐような心地よい残響で溢れていた。

礼拝は教会のオルガニストによるバッハオルガンの演奏で始まった。オルガンに引き続き私達の最初の演奏「モテット第6番」。次に会衆と一緒にコラルを歌う。この日は「暁の星のいと美しきかな」の1番、4番、7番を歌った。まずオルガニストの前奏であるが、即興演奏でまるでオルガンのソロ曲のように華麗なものであった。続いてオルガンの伴奏によって1番を会衆の方達と一緒に歌う。4番は我々の演奏だが、オーケストラ編曲および合唱編曲とも三澤先生がこのために書き下ろしたもの。(実はこの楽譜は出発時に空港で渡され、オーケストラはドイツでの練習の合間にパート譜を書き、合唱は移動のバスの中で練習した。これもまた楽しい思い出となった。)7番は再びオルガン伴奏により全員で歌った。その後Christian Wolf牧師によるお説教があり、最後にカンタータの演奏で締めくくられた。特に2日目はエビファニー(顕現節)で、そのためのカンタータ第65番「彼ら皆サバより来て」を演奏した。基本的には礼拝であるので演奏が終わっても拍手はないのだが、しばらく間があって拍手の輪が会衆の中からひろがり大きなものとなった。その後Wolf牧師や現在のカントール(つまりバッハの後継者)Georg Christoph Biller氏が聖歌隊席にいられてねぎらいの言葉を掛けてくださった。こうして我々のドイツでの最後の演奏が終わったが、皆その場を離れ難くいつまでも写真を撮り合っていたのであった。

早川徳次



2001年1月6日
ライブチ・聖トーマス教会でのミサ
演奏終了後の写真

バッハはまさにこの場所でカントールの仕事を執り行っていたのです。

バッハ研の演奏は現在のカントールであるピラー氏やヴォルフ牧師からも大いに称賛されました。